

平成15年11月30日

細田通信

六本木ストリーー1

六本木ヒルズとは、総事業費約2800億円を投じ17年の歳月をかけ国内最大級の再開発事業、開業以来半年で来場者2500万人であり、丸の内オープンの記録をはるかに凌ぐ活況ぶりだ。

約230店に及ぶ六本木オリジナルを売り物に、オンリーワン店ぞろいのテナントの売り上げ好調である。

六本木アカデミーヒルズ、野外ステージ、美術館 展望台 図書館 街全体がアートのテーマパークであり、若者から大人までどんな年齢の層でも安心して楽しめる構成になっている。

高級賃貸ビルには超グローバルサムスン、日本IBM、ゴールドマンサックスなど外資続々入居、家賃100万の超高級マンションには外資入居組職住近接によるフル稼働している。

このように六本木を支えているのは、外人でありそれも世界の超一流会社が入居し街全体の活況に貢献している。

戦後 占領軍が住み、いまや外資オーナーが住む街 外人外資によって支えられている街だ

六本木外資の主力は米国の会社だ。米国はいま双子の赤字といわれる貿易赤字、財政赤字に苦しんでいる。ところが

経済界は活況を取り戻しつつあり、株価上昇中しデフレの懸念は遠のいたといわれとてゐる。

この好況の原因の一つに、日本政府が円安による安い円でアメリカ政府の発行の膨大な額の米国財務省証券購入の結果、景気が上向きつつあるのではないでしょうか。米国の、金利上昇抑止、株価上昇の好循環の結、日本の株価も引っ張られて上昇し、日本の景気にも明るさ見えてきているのである。経済のグローバル化は、外資進出による六本木の発展相反する要素のバランスが、安定した経済を生み出すのか？

いずれにしても経済のグローバル化が、六本木活況の一因である。 続く

平成 15 年 12 月 19 日

六本木ストーリー 2

六本木ヒルズの開発を主導したのは森ビルグループだ、森ビルは当初からこの構想をリードし開発を成功に導いた名実とも功労者だ。六本木のコンセプトは文化都市そのものであり、世界の人々が訪れる究極の目的地である。ともすれば若者主導に傾きがちで、熟年の二人ずれがきてもなんとなく場違いな感じで、なかに入りきれず寂しい思いで、二度ときたくない雰囲気を徹底的なカットし、どんな階層の人がきても、それぞれの階層が階層別に安心して楽しめるような工夫が随所に見られる。飲食店などは階層別のエリアがあり、熟年者たちが集まって同窓会的な、宴会も十分に対応可能なエリアがあつてどんな階層でも楽しむことが出来る。

圧巻は「けやき坂通り」と称するのは、六本木ヒルズの中心地に、新しく道路を作ってしまったことだ。とてつもなく、思い切りよく大きな空想が、この素晴らしい街を生んだことである。

旧毛利庭園の活用も素晴らしいものだ、毛利家が残してくれた遺産を、いまや六本木ヒルズが日本古来の庭園の素晴らしさをグローバル化したものである。森タワーの、52階室内展望台のスカイデッキは海拔 270 米の高さで空中回廊であり、夜景

の素晴らしさは他の展望台の比ではない。特に目の前に東京タワーを臨む場所からの夜景は正に夢の国の雰囲気だ。

家賃百万円の短期滞在者対象高級賃貸住宅の活用方法は、ユーザー側の要望は職住近接による通勤時間の短縮、空いた時間を知的活動に回す自己啓発向上の時間増やし、

熾烈な競争に勝ち抜く人材を育てねばならない。

森ビルは今や

不動産業単体から、総合的な流通業サービス業に脱皮した比較すると、六本木ヒルズ店舗床面積プラスラフォーレ原宿、ヴィーナスフォートを加えると西部百貨店都内 3 店同等店舗面積となる。森社長は、六本木ヒルズを日本経済の再生起爆剤としたい。超高層による開発が一番機能的だ、

開発は高密度、好環境両立の超高層以外に無しただし乱開発は環境悪化につながり危険

総合的なグランドデザインが必要である。 続く

六本木ストーリー3

地下鉄麻布十番駅から六本木ヒルズに向かう通称麻布十番通りは、百年以上続く老舗が並ぶ歴史のある商店街だ。ところが近年の時代の激変の荒波にもまれ構造変革から取り残された陸の孤島として取り残された存在であったが、今回の再開発で六本木ヒルズとともに発展を前提として再生した。甦った麻布十番街はもともと百年の歴史をもつ十分すぎる実力を備えた横綱である。チャンスというか結果きっかけがあれば、持ち持ち直す力は十分だ。早速ヨーロッパにならって電柱は地下へ潜らせ景観を創った。老舗はレトロブームを起こしてお客様をひきつけ魅力ある商店街として完全に復活した素晴らしい事例である。

六本木ヒルズブームの派手さはないが、老舗特有の粘りでお客様を呼んでいる。冷たい冬の雨が激しく降るなかウイークデーの昼間で人が集まりにくい条件にもかかわらず、傘を片手に、カメラを首にぶら下げた、団体のおのぼりさんから、中年のおじさんおばさんの個人のグループと、一寸意外だったのは若い女性のグループが、泳げ 鯛焼き君の店と、豆屋の老舗 豆源に大勢はいって黄色い声ではしゃいでいたのが印象的だった、外人の団体客もおおくそれも中国人の団体がなにやら大声で歓声を上げているのが目に付いたこれも六本木効果ではないか、本家の更科そばやは超満員予約しなければ入れない状況であった。老舗といわれるお店は、このようなお客様が冷やかしではなく何か買わなければと 目の色を変えて品定めをしていたのは驚きであった。このような人たちで賑わっていた。

六本木効果といおうか、六本木の門前町のほうが通りがよいかも知れぬ。先ほどの団体客

若い女性客は六本木へ来たついでに、麻布十番の老舗を見たくて來たが、思いのほか面白いものがあるので、財布の紐を緩めたのではないか、六本木門前町は、六本木が新しすぎてついていけない人たちには、人気があるのではないか、なにごとも、現象のうらにはそれなりの理由があるものだ。表面だけ見ないでよって来る原因を追究する目、物の見方を学んだ一日であった。

六本木ストーリー4

内部のインテリアに木材がふんだんに

建物内部のインテリアにも、木材が適材適所でふんだんに使われているのも嬉しいことの一つだ。

六本木ヒルズの売りのひとつは、ビルとビルがつながっており、外へでなくても行き来できるのがパブリックエリアの特徴の一つだ。つなぎの部分はふき抜けの部分として有効に使っている。一階は通路だが二階以上は橋で結ばれ往来中の構造になっている。橋の部分の手すりなどに木材が集成材がふんだんに使われている。人の流れがビルとビルをつなぎだ橋を渡って行き来しており効率的な構造だ。買い物に疲れ、歩きつかれ 向こうの建物はどうなのかと思いいながら橋をわたると、橋は木材がふんだんに使われホッとする癒しの部分、ホッすることは安心すること、人間の生活のなかで安心は重要な要素だ。パブリックエリアではこんな役割を木材が果たしている。

オンリーワン店がひしめき競い合って立ち並ぶ商店街でも木は重要な役割を果たしている。

ロシアのエルミタージュ美術館にある木製のしかも銘木のチークを使った重厚なドアが店の品格を上げている。床は名栗加工付き、しかもヘリンボーンの使用チークの床板だ。来場者お客様は、実に贅沢な気分に浸ることが出来る。このような素晴らしい仕掛けを持った店が研を競うように並んでいるエリアがオンリーワン店の特徴だ。ここで強調したいのは木材がいかに商店の重厚感をつくり、贅沢なムードをかもし出しているか、先ほどのパブリックスペースの部分を乗り越えたもう一段上の品質を受け持った部分であり、木材の本当のよさがかもし出されているのではないか、食事にたとえればなくてならぬものであることは先ほど述べた。この例では、野菜でなく、ピリリと利いたワサビのような雰囲気を醸成しているのが木材の良さではないか。洋風なら洋辛子、和風ならばワサビのような役割ではないか、料理にはどうしても必要なもの、建築や景観にどうしても必要なものが木材ではないか、木材業者は自信をもって木材の良さをPRし需要の拡大に努めるべきである。

六本木ストーリー5

六本木ストーリー5

機能性重視

木材がふんだん使われ、六本木だけのオリジナル商品が豊富にある品揃え、自分だけのパーソナルブランドなど工夫を凝らした商店街、こんななかで、木が生かされ、インテリアのなかで際立って、輝いている存在、正に木材のよさが、木材のなかで分類されそのまま生かされている。外部の景観エクステリアには、歩道などに使われているウッドデッキは、耐久性が高く、しかも見た目にも豪華な感じの広葉樹で、ブラジルなど海外から輸入する樹種が多く使われている。日光の紫外線や、雨風にも耐えられる対応性の高い樹種だ。つぎに緑の樹木や、お花を生かすためのフラワーボックスは、周囲の環境に馴染みやすい、柔らかな雰囲気の針葉樹で、防腐性の高い松類が多い。それも焦がし加工をして防腐性を高めると同時に木目を浮き立たせ、美的要素を加味し、機能と見た目にも配慮したものが使われ、周囲の環境に溶けこみ際立って向上させている。パブリックエリアの床に、穴あきマンホールを発見した。何のためかわからずうろうろしていると同行者の先生から、これは多分空調の噴出しが口ではにかと解説された。通常空調の噴出しが口は建物の上部と決まっているのに何故かと、同行者で議論したところ議論百発いろいろの意見が出たが、大筋ではコストの関係ではないかと決着した。後日確かめたところ空調を下に下ろすことにより、大幅なコストダウンが可能とのことであった。上部に配管するダクトは、まったくの現場あわせ現場施工高所作業のため非能率はなはだしくコストの一番かかるところである。これを下に下ろすことにより、現場作業がおおることになる。大幅コストダウンされることになる。このことが可能なのは、最近めきめきと頭角を現したのが、二重床であるまったく機能性一本に絞ったコスト重視の二重床があればこそである。オフィスビルなどはコンピューター配線の必要性のために二重床の需要が急速に高まり、新設ビルのほとんどが二重床を採用している。工期大幅短縮とともに、周辺工事設備の大幅なコストに貢献しているのがこの二重床である。画期的な商品とも言うべき二重床は、今後もますます需要を増やしていくことが考えられ世間がどう対応していくかでいる。このような時に木材をどうドッキングするかが、問われていくことではないか、 五回にわけて六本木ストーリーを書きました。お付き合い有り難く拝受申し上げます。ご意見のご批判をお待ち申し上げております。終わり

平成15年12月5日

通信

スタジオコーストー1

新木場駅前千石橋を渡った水際に、スタジオコーストが出来てから早くも一年近く経過した。従来の新木場に無い新しい施設として注目を集めている。週末になると若い男女が終結しばんやり見ていると、ここが新木場かな?と一瞬自分は都心のライブハウスの前に居るのではと錯覚するほどの変わりようだ。一体ここは何なんだ?常に疑問をもち続けていたが、一遍なかを見たいもんだ、見る前に説明を聞きたいもんだ、次に実演を見たいもんだ、と機会を狙っていたところ木場製材組合の牧野総合対策委員長と私が委員長を仰せつかっている市場開発委員会と合同で一連の疑問にチャレンジしよう。探究心旺盛な委員の意見で実現した。この視察会は3回に別けて実行しようということになり、第一回目は説明会を開催した。アーバン開発青木社長のお力添えで、7月にまず説明会を行った。

ここは、経営者マザーエンターテイメント高橋社長によると、このスタジオは、スタジオ独自で興行せず、都内最大の常設貸しホールだ、対象はライブコンサート、レコード会社、プロダクション、一般企業への貸し出しのほか、モデル撮影、録画撮り、ファッションショー、パーティーなどのイベントスペースなどの多目的ホールである。



スタジオコースター2

なぜ新木場を選んだか、都心にありながら、都会に無い穴場

1. ロケーション 水辺、富士山、花火
2. 交通アクセスお台場駅 5分、電車 渋谷 22分 有楽町 10分 東京駅 8分、駅前徒歩 4分
3. スペースの確保 2100坪 収容人員 2500人

設備

1. 照明 マルチムービングトラシスシステム
2. 音響 [L-Acoustics 社のV-DOSC]
38機の3ウェイ フルレンジスピーカー[Jim Toth Original]
3. ホール形状 オクタゴン型「国内初」

料金

1. 基本料金（9:00~22:00）¥1000千

現在のところは週末には夜を徹してライブコンサートの申し込みが多く、若い男女で満席になることが多い。周辺は水辺に囲まれ東側は葛西臨海公園の大観覧車のネオン、デズニーランドの花火も遠望できる。交通手段としては、鉄道が5本入線している新木場駅前にあり、渋谷から無料のシャトルバスを運行、夜間時間で20分の距離であり立地的には悪くない場所だ。まだ新木場とは千葉県かと聞くお客様が時々居るほど知名度がもうひとつである。「新木場とは千葉県か？」この発言にいささかショックを覚えた

スタジオコースト－3

11月に視察会を実施した。約20名の熱心な方が集まり、高橋社長の案内で建物の中を見て回った。ここで改めてスタジオコーストの概要を紹介する。

- 面積、敷地面積：実測2100坪、建築面積：約853坪、延床面積：約1049坪
- 各階面積、1階：約812坪、2階：約223坪、メインホール：1085.64m²、ステージ面積：144m²
- ステージ構成：間口16m/奥行き9m/床高1.2m。小ホール：69.22m²、小プール：6mx6m
- 収容人員：2500人
- 料金：基本料金（9.00~22.00）¥1000千

会場は蝶のイメージ

建物全体は、

入り口が狭く奥が広い不等辺三角形、魚の形、それも蝶のように口が小さく腹が広いイメージだ。鉄骨一部2階建て格好としては、首を傾げたが敷地の関係など考慮したようだ。入り口が2ヶ所に分かれており、パン用は正面の狭い入り口は蝶の口から入場するが、一度にお客様が殺到しないよう、安全面が配慮されている。

一方コンサート用の入り口は、蝶の腹から、すぐに約300坪のメインホールへ直結している。コンサートなどはホールにイスを並べて観客席とする。蝶の腹の部分には階段状のスタンド席が配置されてメインホールを見下ろしている。スタンドの中央部分にはサートライト式の照明が舞台に向かっている。蝶の背中の部分にあたる所に、間口16m 奥行き9m 床高さ約1mの舞台が、高さ15m(GL)頭上に照明とスピーカで重装備したまるでコンサート用の戦車さながらに、客席をにらみ「サアーいつでも」と戦闘開始を待っている。イベントではメインホールは立ち席で、1m高さの舞台とホールのお客さまが一体となれるよう工夫がほどこされている。内部の設備にも気が配られており、洋風バー、ウェスタン風、ヨーロッパ風といつかあり見て回るだけでも楽しめるインテリアだ。蝶のシッポにあたる東側は、水辺に面したバルコニーがあり、うれしいことに木のデッキが使われている。夏はプールで汗を流し、大観覧車のネオンを眺め8時半にはディズニーランドの花火も見ることが出来る結構楽しめる雰囲気だ。このように貸しホールだけではなく、お客様に楽しんで頂く準備も十分に整えている。

スタジオコースト－4

いよいよ観劇

入れ物と仕掛けはみた。次はイベントかコンサートを見なければ、このスタジオコーストなる魔物の正体が解明できないとばかり、木場製材から 20 名限定で申し込んだ。

時空の響き 大倉正之助

宇宙にはすべてが有り、また、何も無い
善、極まれば悪となり、また、悪、極まれば善となる
清濁混沌なるこの現世（よ）にて人は右往左往
念ずれば通ずる
思いひとつで上にも行けば下にも行く自由自在の心
今夜の宇宙を意楽しみあれ

たまたま 11 月興業の「能」大倉正之助の飛天双〇能の切符が手に入り観劇した。

大倉正之助とは、大倉流 15 世宗家故大倉長十郎の長男（大倉家は室町時代より 650 年つゞく能楽囃子「大鼓・小鼓」の家）8 歳で初舞台、能の域を超えて、日本の伝統文化を世界に発信している文化プロデューサー、太鼓独奏の名人で、至難の業、大鼓の素手打ちにこだわり、人器一体となる大鼓は、国内外より高い評価を受けており、日本能楽界会員として重要無形文化財保持者である。

こんな有名人の公演が見られるとは、幸運なことと、早速家内で同伴で申し込んだ。

当日は超満員の盛況、メインホールを人の波が埋め尽くした。バスで乗りこむ団体客も、開演間際に、駆けつける個人客、同伴のカップルも、普段見慣れた人々と人種が違うようだ。芸術家の集会のような雰囲気だ。

公演は飛天双〇能（ひてんふたわのう）と銘うち、それも第 13 回とある。双〇とは、二つの世界、舞台は演者と観客が一体となる場だ。

飛天とは自由に飛ぶ「能」だけにこだわらず、他の楽器、他の演者、海外公演など世界に羽ばたく意味がこもっている。オートバイもその一つ、むき出しの体に感ずる宇宙の息吹、風雨、灼熱の太陽、凍りつくような吹雪、人間が自然と宇宙と向き合っている空間、とどろく爆音、闇を切り裂くライトなどなど、これこそ「能」に通じるところあり、としてライダーの共感を得、バイクグループも参加している。二つの輪は、オートバイの双輪をも表している。

太鼓と大鼓は違う。太鼓は撥で打つもの、大鼓は手で打つものだ。大倉正之助は当初、小鼓を継承していたが、大鼓に転向、人器一体となる素手打ち大鼓のには、国内はもとより海外からも高い評価を受けている。

スタジオコースト－5

待ちに待った「能」舞台の幕開けだ。正之助が、大鼓の独奏舞台に登場、大地の揺らぎのような太鼓の音は、幽玄、神秘、そして力強い大鼓の独奏がしかもかなりの時間続いている観客を魅了しながら、これほどダイナミックに演じられるとは……。

満場水を打ったように静まり返り、舞台の中に吸い込まれるような感動を覚えた。

番組は、能「山姥」と新作能「一石仙人」だ。「山姥」が最初である。

「能」とは

シテ方 踊ったり、謡ったりする、ワキ方 シテを助演しストーリーを導く、囃子方 器楽、笛、小鼓、大鼓、太鼓の演奏、これらの三者が一体となって進められていく

「能」舞台は

4本柱で囲まれた3間四方の本舞台、下手に延びる五間の袖舞台（橋掛かり）があり通常の「能」の活動空間はこの舞台のなかで演じられる。

基本

人間の心、情、深層に潜む妄念をえぐりだし具象化して見せる。大自然を取り上げても、映し出されるのは人間の思いだ。手許の水桶に映りし月の影、実ることの無い恋、去っていた恋人などを象徴する。「松風」花籠（はながたみ）などが代表作だ。また「山姥」は仏教の哲理、自然観、人間の存在などを山姥という霊鬼という形で表している。

題材

源氏物語、平家物語など古典文学歴史上の争いや古代神話など（津村禮次郎演出ノート）

山姥のストーリー

道に迷った百万山姥と名乗る遊女の前に、本物の山姥が現れ、何故自分に心をかけぬかと恨み、謡を聞かせてくれれば、自分も本物の姿で、舞を舞うと約束、夜更けに遊女が謡い始めると山姥が、正体を現し山姥そのもののすさまじい形相で、謡いにあわせて山廻りを舞う、山姥の舞は、深山の光景、邪正一如、色即是空など仏教の摂理を説く。山姥は自分が人間を助ける仕事しかないので、目に見えぬ鬼といわれることに、妄執を持つ。四季折々の山から山へと、山廻りを見せやがて消えていく。

舞台のシテ、ツレ、ワキ、後見、地謡、笛小鼓、大鼓、太鼓舞と謡いと演奏、これらの三者が一体となって進められた総勢13人、約一時間半の演技にすっかり魅了された。

スタジオコースト－6

一石仙人のストーリーのあらすじ 作 多田富雄より

一石仙人とはドイツ語読み「AINSHUTAIN」をもじったもの

女学者が率いる旅人の一行が、砂漠に来かかると、日蝕が始まり、天に星が輝く、宇宙の神秘が始まる。

羊飼いの老人が現れ、天に輝く星の光は10万光年の彼方より、今この地球に届いたもの「今と見るは昔、昔と見るは今」しかも、「光は太陽の重力によって曲げられ、見えるはずの無い星まで見えるのだ」かつて「一石仙人」なる学者がいて、この「相対の理」を明らかにしたと教える。宇宙の彼方へ消え去る。これがわれわれの知っているAINSHUTAINの「相対性理論」である。

老人は一石仙人に姿を変えて現れ、地上に起こる現象や、宇宙の様相を語り、「宇宙の真理」へと導く、（人間は既に「相対の理」の中の存在でありそれでしかありえない、と思い知らてくれる）？

星は生まれ、消滅する。空間はゆがみ全てのものが落ち込んでゆく。想像もできないほど重力を持った「ブラックホール」

能の終わりは、神の仕業の偉大さ、宇宙の神秘を教えこれを知った人間の存在を暖かく称賛する。

スタジオコーストー7

時空の響き

宇宙にはすべてが有り、また、何も無い

善、極まれば悪となり、また、悪、極まれば善となる

清濁混沌なるこの現世（よ）にて人は右往左往

念ずれば通ずる

思いひとつで上にも行けば下にも行く自由自在の心

今夜の宇宙はいかがでしたか

「能」とは神前に奉納された古い芸能として人々の心を和ませてきた。神を敬い、自然を畏怖する人間の想い、願いを託した芸能、表面的な人間の喜怒哀楽や感情の起伏を超越し、抑えた表現のなかから、宇宙の鼓動生命の躍動を表してきた。ながい歴史のなかで、現代に受け容れ難い形骸化した部分も出てきた。もう一度紐解き原初にもどって、能の力を再生させたい。公演のあと、大倉正之助は舞台から、こんな意味の想いを込めて挨拶した。

長々と書いたが、今回のスタジオコースト探訪が、ホールの仕組み、催事、最後の観劇が感激となり、涙が出てくる感動に変わった。当初の興味本位からここまで発展し、知識の吸収、知的欲求、そして満足感を経験することができたことは幸運であったと思う、最大の収穫は、感動の共有に気がついたことだ。

これは正に、感度の共有である。スタジオという一つの空間のなかで、「能」の演者と観客が一体となって、宇宙の神秘、神の力、人間の偉大さを「能」という演出を通じて、感動の心のコラボレーションを、共有できたこと、が素晴らしいことではないか。正に感動の一語に尽きるものである。

この企画を計画し、実行してくれた東京木場製材協同組合副理事長兼、総合対策牧野委員長に深い敬意を表する次第である。これも個人では出来ないこと、きっかけさえつかめないことを、共同の力でここまで進めることができたことは、協同組合の力であり、協同組合でなければ出来ぬことではないか。改めて協同組合の力を痛感した次第、懸案の地域の問題なども力をあわせれば実行できるものとではないか。協同組合は、目標を、ビジョンを持つこと、達成できたときの「感動の共有」することではないか、倉持特別顧問の新年のお言葉の通りであり、感動の共有こそが、協同組合の使命ではないか。有難うございました。